

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成27年5月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

燃料の安定冷却を24時間体制で支えています

- 当所は、本年3月に、原子炉内から使用済燃料プールへの燃料移動作業が終了し、現在、すべての燃料（約1万本）は1～4号機の各使用済燃料プール内で保管、冷却されています。
- この使用済燃料プールの水は、冷却システムにより30℃程度に保たれており、中央制御室の当直員が、プール水の温度の傾向を把握するとともに、正常な範囲で維持されていることを常時監視しています。
- また、冷却に関わるポンプやモータといった機器類の状態を確認するために、毎日、現場パトロールを行い、不具合の早期発見に努めています。
- 安定した燃料の冷却を継続するために、当直員は24時間昼夜を問わず、プラントの冷却設備を守り続けています。



使用済燃料プール



冷却システムの警報表示の確認



プール水温の記録計の監視



現場パトロールで機器の状態を確認

専門家が設備の定期診断を実施しています

- 燃料の冷却設備等について、日々の当直員によるパトロールに加え、定期的な設備診断により機器の状態を確認しています。
- 設備診断は、機器を運転した状態で赤外線カメラによる温度測定や精密機器を使用した振動測定、潤滑油のサンプル採取等を行い、機器の状態変化をデータとして捉えます。
- こうして得られたデータは、『機械保全技能士』の資格を持つ所員達が中心となって分析しています。専門的な知識や分析能力も活かして、機器に与える影響を早期に察知して、経過観察を含めた対応を検討します。
- また、このような高度で専門的な技能は、若手所員へも伝承して、技術力の向上も図っています。



赤外線カメラでの温度測定



精密機器を使用した振動測定



顕微鏡による潤滑油の分析



設備診断に関する検討会の様子

熱中症対策を強化し作業員の安全を守ります

- 暑さを感じる季節となりました。当所は、今年も熱中症対策を積み重ね、その発生防止に努めます。
- 所員や協力企業の作業員に、掲示板やメール等で発生事例を伝えたり、講習会を開催することにより、熱中症に対する意識を高めています。
- 作業を実施する際には、計画的に休憩を取ることを徹底するとともに、作業現場の出入り口や休憩所等に塩タブレットや経口補水液等を配備して水分や塩分が手軽に補給できるようにしています。
- 作業前の体調確認を徹底したり、クールベストの着用も促しています。また、当日の『熱中症予報』を掲示して注意喚起も行っています。
- こうした対策や取り組みを継続して行い、熱中症の発生を予防します。



熱中症対策用品の設置



協力企業に向けた協力依頼の様子



クールベストの配置

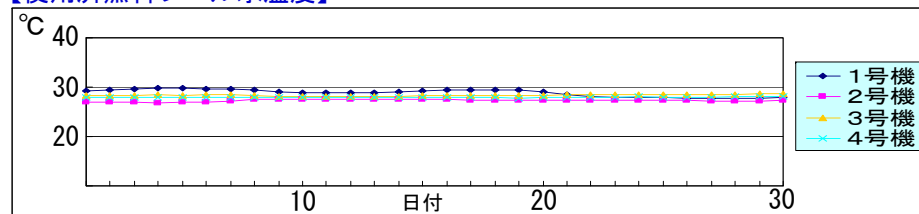


熱中症予報の掲示

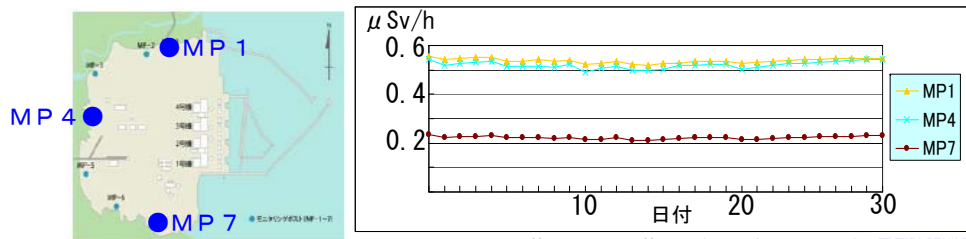
燃料の冷却状況（4月分）

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【使用済燃料プール水温度】



モニタリングポスト（MP）の計測状況（4月分）



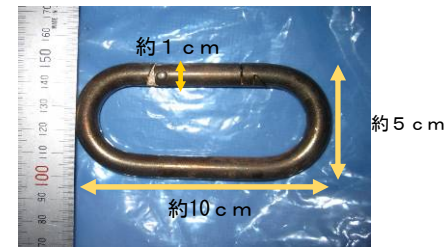
計測地点 設置しているMP7基のうち、3基を代表で記載しています。

さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。 <QRコード>
<URL> <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>



1号機使用済燃料プール内に異物（カラビナ）が混入した原因と今後の対策について取りまとめました

- 本年3月6日、1号機使用済燃料プール内に異物を発見し、同月9日に回収しました。回収した異物は、金属製のカラビナ（開閉できる部分のついたリング）であることを確認しました（平成27年3月6日、9日ホームページでお知らせ済み）。
- 原因調査の結果、このカラビナはプール内で使用する工具等を吊り下げる際に使用されるものであり、使用済燃料プール等において、異物混入防止対策を強化した平成16年4月以前に混入したものと推定しました。
- 引き続き、作業前後に工具の数量確認を行う等、異物混入防止対策を徹底していきます。



回収したカラビナ

さらに詳しい調査結果は、当所ホームページをご覧ください。

<URL> http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/press_f2/2015/pdfdata/j150515c-j.pdf